

## 新年のご挨拶



国際電気通信連合 (ITU)  
事務総局長

ドリーン・ボグダン  
マーティン

2025年の新年を迎えるにあたり、日本ITU協会会員の皆様にご挨拶できることを大変嬉しく思います。私たちの共通の目標は、デジタル技術の普及と持続可能な未来の実現です。

現在、地政学的緊張や経済的不安定、気候変動による自然災害など、多くの課題が私たちを取り巻いていますが、これらはむしろ私たちの決意をさらに強めています。デジタル技術、とりわけ人工知能 (AI) は、人類が直面する最も重要な課題への解決策となります。AIだけでも、国連の持続可能な開発目標の進捗を約80%へと加速する力があります。この分野で国際電気通信連合 (ITU) が担う役割も非常に重要です。

先ごろ国連総会で採択されたグローバルデジタルコンパクトでは、テクノロジーソリューションが持続可能な開発には欠かせないことを示しています。

ITU世界電気通信標準化総会 (WTSA-24) では、AIから持続可能なデジタルトランスフォーメーション、デジタル公共インフラ、緊急通信に至る主要分野で新しい決議が採択され、強力な国際技術標準の重要性が再確認されました。しかしながら、人類の3分の1がオフラインであり、不十分な接続、高額なアクセス料、母国語での関連コンテンツ不足、プライバシーと安全性の懸念など多くの課題があります。

ITUは今年160周年を迎えます。そのうち146年間、日本とは共に歩んできました。日本ITU協会が設立された1971年当時は固定電話アクセスが大きな課題でしたが、今では宇宙経済や量子コンピューティング、AIといった新しい時代へと進んでいます。

国連事務総長アントニオ・グテーレス氏が6月にジュネーブの本部を歴史的に訪問した際、次のように強調しました。「ITUの技術的専門知識と協力への取り組みは、新しいデジ

タル時代を切り開く上で、私たちの世界がまさに必要としている資質です。」

デジタル技術の恩恵を世界中のすべての人にもたらすために、これまで以上にITUの無線通信、標準化、開発の各セクターの働きが重要です。また、日本、その業界関係者、そして日本ITU協会は、よりつながりのある、安全で持続可能なデジタルの未来を築く上で重要な役割を果たしています。

日本政府や企業も「グリーン・デジタル・アクション」に取り組み、ハイテク関連企業との連携によって環境問題にも対応しています。また、最大の予算拠出国である日本の支援により、開発途上国の技術及び規制能力向上につながっています。私たちは共に協力して、標準化のギャップを埋める上で大きな変化をもたらしているのです。

日本のデジタルコミュニティは、AIなどの新しいテクノロジーに関する倫理やガバナンスの問題を探求する上でのパートナーでもあります。日本政府は、ハイテク企業、業界団体、金融機関、国連機関、その他の主要機関を結集して、ハイテク関連の温室効果ガス排出を抑制し、電子廃棄物を管理し、また通信インフラを活用して環境回復力を高めることを推進する「グリーン・デジタル・アクション」イニシアチブの強化を支援しています。

日本からは34のセクターメンバー、12のアソシエイト会員、10のアカデミア会員がITUの活動を支援しています。3つのセクターすべてにおける日本の揺るぎないコミットメントと支援に、心から感謝の意を表します。

グローバルデジタルコンパクトの実施に向けて、特にその成果を2025年に予定されているWSIS+20の見直しと整合させるため、ITUの全員が、皆様との協力関係を深めていくことを楽しみにしています。

今年私たちが共に行う行動は、私たち自身だけでなく、将来の世代のための基盤を築くこととなります。技術と接続性の力を高め、世界中の誰にとってもより良い世界を作るための新しい方法を模索する中で、ITUの電気通信標準化局長である尾上誠蔵氏や他の幹部職員との建設的な協力関係をもう1年築けることを楽しみにしています。

最後になりましたが、2025年に大阪で開催される国際博覧会の一員として、私たちの取り組みを日本、そして世界の人々と共有できることを楽しみにしています。

すべての会員の皆様にとって、新年が幸福で豊かな年になりますようお祈り申し上げます。今年、そして今後末永く、すべての人に繁栄と進歩、平和が訪れますように。